

震災から現在（いま）③

企画課情報広報係 ☎ 028 (67) 6099

7・8月号と2回にわたりお伝えした、震災を振り返る特集の最終回です。町では、今年度の重点事業の1つに「防災・消防機能の向上」を掲げています。具体的には、東日本大震災の対応から『芳賀町地域防災計画』を見直し、より有効かつ効率的に町民の皆さんの生命と財産を守ることができる計画を策定します。

最終回の今回は、見直しを行う『芳賀町地域防災計画』のポイントと、家庭でできる防災についてお伝えします。

芳賀町地域防災計画

平成19年3月、それまでの計画を一部修正した『芳賀町地域防災計画』が策定されました。この計画は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）に基づいて、国、県、町、議会、消防団、東京電力などの各種機関の代表で構成される芳賀町防災会議によって策定されました。

内容は次の4つのカテゴリに分けられています。

- 1 共通対策編
- 2 風水害対策編
- 3 震災対策編
- 4 放射性物質、危険物事故対策編

防災計画の見直し

震災が発生した当時、この防災計画の震災対策編を基に役場内に対策本部を設置し、被災者の援護と状況調査活動を開始しました。しかし、地震規模が大きかったことや、防災計画の内容が現状に合っていない点があったことから、防災計画が十分機能しませんでした。

防災計画の目的は、芳賀町における災害に係る予防、応急および復旧・復興対策に関し、町および防災関係機関などが処理すべき事務または業務の大綱を定め、災害対策を

自主防災組織の役割・体制の見直し

町内の各自治会では、防災組織を設置して有事に備えた防災訓練を、これまでに1回は実施しています。地域でも震災を振り返って現在（いま）の防災組織を見直ししましょう。例えば、

「共助」の考え・・・地域でできることは何だろうか？
・高齢者や障害者の要援護者を含む隣近所の安否確認の方法

災害の状況の確認手段
・地域に水を確保できる水源の確保
・食糧の確保と炊き出しの準備



情報館の様子



防災訓練

避難場所の見直し

町で指定している避難場所は21カ所です。しかし、旧小学校体育館など無人のところが多く、トイレや水道の設備が不足していたり、食糧や毛布などの備蓄品が備わっていないなど、今回の震災で問題点が明らかになりました。計画を見直し、有事の際に住民の皆さんが安心して利用できる避難場所を設営できるようにしていきます。

今後の日程

7月から始まった地区座談会で、地域防災計画の見直しについて説明しています。住民の皆さんには、個人や地域で何ができるかを話し合っていたとき、計画の見直しに反映させていただきます。町では、自治会長との連絡会議を毎月開催していますので、提案や要望などを自治会長に寄せてください。

- ・7月5日 地区座談会で計画見直しについて説明
- ・8月5日 平成25年1月 大字防災組織や自治会による体制、役割検討、地震ハザードマップ、洪水ハザード

家庭でできる防災

●地域の特性を知っておく
地震による被害と影響は場所によって違います。町で作成する「地震ハザードマップ」や「洪水ハザードマップ」を参考に地域の特性を知っておきましょう。そして、避難が必要になった場合を想定し、避難場所までの経路を確認することも必要です。特に、高齢者や小さい子どもなど自力で避難することが難しい人がいる家庭では、避難方法についても話し合っておくことが不可欠です。



▲避難所看板

●地震に強い住まいづくり
今回の地震では、16棟の住宅が全壊、130棟が半壊してしまいました。壊れなくても大きなダメージを受けた住宅は数えきれません。自宅がどれ



▲被災住宅

だけの地震に耐えられるか、知っておくためにも、自宅の耐震診断を受けましょう。町では、耐震診断を受ける費用の一部を助成しています。詳しくは都市計画課にお問い合わせください。

●非常時のための防災用品を準備
地震のあとは、コンビニやスーパーからインスタントラーメンやレトルト食品、飲料水、乾電池が消え、灯油やガソリンを買い求める人や車が長い列を作りました。大地震が起こると電気や水道が断たれ、生活が極端に不便になります。その中で「とりあえず最低限の生活ができるもの」が「防災用品」と考えると自ずと必要なものはわかるはずです。

家族の安否確認

震災が起こると、人は一斉に電話を使って家族や知人の安否を確認します。すると電話がかかりにくくなり、救急や災害対策の連絡に支障が生

じます。そのため、災害時の電話はできるだけ控えることが求められています。

そこで電話会社は、このような状況の中でも電話による安否確認が行えるよう各種サービスを行っています。家族の間で複数の連絡方法を決めておいて、災害時に生かせるようにしておきましょう。家族が集合できる場所を決めておくことも重要です。安否確認サービスの例
NTT災害用伝言ダイヤル「171」

災害用ブロードバンド伝言板「WEB171」

町の緊急情報を得る

地震や台風の情報は、テレビやラジオ、インターネットで得られますが、町内で発生する恐れがある大雨による洪水・突風・竜巻・火災と、警察や消防署の依頼による行方不明・不審者情報は、防災無線・メール・芳賀チャンネルの文字放送で確認できます。特に外出先でも便利です。で、携帯電話へのメール配信サービスに登録してください。



QRコード

—あ と が き—

東日本大震災によって、芳賀町は、想定以上の大きな揺れにより、想定していた以上の被害に見舞われました。これに伴い県と町は初めて大規模な被災者支援を行い、支援方法について多くの反省点を見出しました。今後は計画などを速やかに見直し、改善して有事に備えなければなりません。

しかし、行政の対応にも限界があったことは、今回の震災で解りいただけのことでしょう。阪神淡路大震災では地域や家庭での備えが最も役に立ったといえます。この教訓からわかるように、まずは「自分たちの身は自分たちで守る」ことを考えることが大事ではないでしょうか。

震災の日、私も避難者の支援に従事しながら、家族の安否や自宅の状況が気になっていました。しかし、結局確認できたのは夜中の2時でした。今まで防災について家族で話し合ったことはなく、もしもの際の連絡手段や食糧・燃料の備蓄などの備えもまったく意識していませんでした。いつ起こるかわからない災害に対して、家族や自分自身で備えることが大切ではないでしょうか。（山本）